



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>
令和8年9月1日(火)発行 第6号

コミュニケーションの大切さ

校長 泉 慎一

令和8年7月28日に熊本地震が発生し、同8月13日に千葉県を記録的豪雨が襲い、多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く平穏な生活に戻れますことを祈念いたします。

さて、2学期も、子供たちにとって毎日の学校生活が楽しく充実したものになるよう、児童・生徒の健康と安全を第一に教育活動を進めてまいります。御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

今号では、少し「コミュニケーションの大切さ」に触れたいと思います。昭和48年に国立特殊教育総合研究所（現・特別支援教育総合研究所）に併設する形で、重度・重複障害のある幼児・児童を対象とした国立久里浜養護学校（現・筑波大学附属久里浜特別支援学校）が開校されました。私が在籍していた当時の中心となる研究課題は「コミュニケーション」でした。30年に及ぶ先行研究の約7割がコミュニケーションの研究でした。今でも、学校では、「コミュニケーション能力の向上と伝達手段の獲得」が中心的課題です。授業を観察していると教員が意図的な選択・決定を求めています。「どの色にしようか？」や「どんな音楽にしようか？」などと提案し、言葉、指差し、スイッチなどそれぞれの方法を駆使して本人の意思を引き出します。また、PECSを活用して、一日を組み立てたり、手話やサイン言語等を通じて意思疎通を図ったり確認をします。このように、日頃の授業の中で、子供たちは「自己選択・自己決定」を学び、一連の学習の成果が、「意思決定支援」となります。これは、地域社会において充実した生活を送ることができるように、一人一人が卒業後の人生を見通し、「学校から社会へ」、「子供から大人へ」というバトンを切れ目なくつなぐ大切な意思決定となります。これからも、学校では学習や生活の場面において、自分の意思で選択し、自分自身で決定することを促し、障害者基本法23条にある、「国及び地方公共団体は、障害者の意思決定の支援に配慮しつつ、障害者及びその家族その他の関係者に対する相談業務、成年後見制度その他の障害者の権利利益の保護等のための施策又は制度が、適切に行われ又は広く利用されるようにしなければならない。」に則り、「コミュニケーション能力の向上と伝達手段の獲得」を深められるよう、子供にとって「学び多き秋」にしていきたいと思います。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

お問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日（午前7時45分から午後6時まで） 042-367-2511（学校代表番号）

【進路について考える】～ 保護者向け進路セミナー ～

進路指導主任 主幹教諭 長谷川 潤

先日、保護者の皆様を対象に、第一回保護者向け進路セミナーを開催しました。今回のセミナーは、「親なきあと」というテーマでお子様が卒業後、そして将来にわたって安心して自分らしく生活していくために、今から家庭や学校、関係機関がどのような準備を進めていくことが大切なのかを考える機会となりました。

講話では、「親なきあと」という言葉から連想される不安や心配を出発点にしながら、本人の生活を支える制度や福祉サービス、相談支援の仕組み、生活の場、金銭管理、地域とのつながりなどについて、具体的なお話を伺いました。また、将来の生活を考える際には、保護者だけで抱え込むのではなく、本人の願いや得意なこと、必要な支援を周囲の支援者と共有しながら、少しずつ準備を進めていくことの大切さを確認しました。

今回のセミナーを通して、将来を見据えた準備は特別な時期になってから始めるものではなく、学校生活の中での経験や家庭での小さな取組の積み重ねが、本人の自立と社会参加につながっていくことを改めて考える機会となりました。

参加された保護者の皆様からは、「具体的に考えるきっかけになった」「家族で話し合っていたい」「今後利用できる制度や相談先について知ることができた」などの感想が寄せられました。今後も学校では、保護者の皆様と連携しながら、一人一人の将来の自立と社会参加に向けた進路指導を進めてまいります。

【進路について考える】～ 保護者向け進路見学会 ～

進路専任 主任教諭 小島 真知子

夏季休業中に、高等部の保護者の皆様にお子様の卒業後の就労の場や生活の場を知っていただく機会として、保護者進路見学会を実施いたしました。今年度は7月21日から27日までの間の4日間で、就労の場となる企業と生活の場となる通勤寮・グループホームの見学を実施いたしました。暑い中でしたが、多くの皆様に御参加いただき、有意義な見学会となりました。ありがとうございました。

就労の場となる企業は、清掃を中心に行う2社、小売販売を行う1社、事務補助等の業務を担う1社の計4社を、そして、生活の場としては、自立生活に向けた支援を行う通勤寮とグループホームの2か所の見学を行いました。

企業見学では、会社概要や業務内容に関する説明、実際に働いている様子を見学、見学後の質疑応答など、それぞれの会社について知るとともに、自ら挨拶、返事ができることや勤怠の安定など、会社で働く上で求められる力についても知ることができた内容でした。通勤寮とグループホームの見学では、生活の場の見学や支援内容等に関する説明、利用に関する手続きなど、詳しくお話を伺うことができました。

今回の見学を通して、お子様の将来の生活を考えるうえで貴重な情報を得ることができたと思います。今後、それぞれのお子様にあった進路選択に役立てていただければ幸いです。

進路部では、こうした見学の機会を今後も重要な行事として位置づけ、来年度以降もより充実した内容となるよう、内容や訪問先の工夫を重ねてまいります。

【教員研修】不審者対応訓練（さすまた操法訓練）

生活指導部 教諭 古野 詩音莉

不審者侵入等の緊急時における教職員の対応力向上を目的として、さすまた操法訓練を実施しました。訓練には生活指導部の教員を中心に多くの教職員が参加し、児童・生徒の安全を守るための実践的な対応について学びました。

当日は、府中警察署生活安全課のスクールサポーターの皆様を講師としてお迎えし、不審者対応に関する講義と実技指導を受けました。講義では、不審者を発見した際の初期対応や警察への通報体制、教職員自身の安全確保の重要性について理解を深めました。また、緊急時には複数の教職員が連携し、落ち着いて行動することの大切さについても確認しました。

実技研修では、さすまたを使用して不審者との距離を保ちながら行動を制限する方法や、安全な位置取り、声掛けによる連携についてロールプレイ形式で学びました。さらに、校内に配置されているさすまたや盾、学校 110 番装置の設置場所を再確認し、迅速に活用できるよう備えを整えました。

今回の訓練により、防犯意識を高めるとともに、組織的な対応の重要性を再認識することができました。今後も関係機関と連携しながら、安全で安心な学校づくりを推進してまいります。



【教員研修】避難所開設運営研修

生活指導部 教諭 楡 高史

災害発生時に地域の避難所としての役割を果たせるよう、防災講演会（避難所設営研修）を実施しました。講師として府中市防災危機管理本部地域防災担当の皆様をお迎えし、教職員だけでなく、希望された保護者の方にも参加していただきました。

講話では、過去の災害事例をもとに、避難所開設時の初動対応や運営上の留意点について学びました。また、安全確保や情報共有、要配慮者への支援、プライバシーへの配慮など、避難所運営に必要な視点について理解を深めました。実技研修では、防災倉庫に備蓄されているロールマットや簡易ベッド、災害用トイレなどの資材を実際に組み立て、使用方法や設営時の注意点を確認しました。参加者からは、「避難所設営を具体的にイメージできた。」という声が聞かれました。

今回の研修を通して、防災意識を高めるとともに、災害時に学校が地域の防災拠点として担う役割について理解を深める貴重な機会となりました。今後も関係機関と連携しながら、防災体制の充実に取り組んでまいります。



【教員研修】第1回学校保健委員会主催講演会

保健・給食・摂食推進部 養護教諭 田中 笑未

7月22日（水）に学校保健委員会主催の講演会を開催しました。今回は、本校の精神科学校医でもある、「府中こころ診療所」の西根 久先生を講師にお迎えし、「精神疾患の理解と対応」をテーマに御講演いただきました。当日は、学校医の先生方、保護者の方、教職員が参加いたしました。講演では、脳の働き、脳神経伝達物質やホルモンと体の関係、精神疾患の方への関わり方、服薬についてなど、データを提示しながら非常に分かりやすく御説明いただきました。

特に、具体的な事例を基にした精神疾患のある方への関わり方の説明の部分では、2学期以降の日々の教育に生かせるヒントを多く教えていただき、大変有意義な研修となりました。

西根先生には月に1回、本校で精神科相談を担当していただいています。お子様との関わり方、生活習慣、学習面、服薬、通院に関することなど、心身の健康に関して幅広く相談に応じてくださいます。相談を希望される場合は、担任または養護教諭まで御連絡ください。



【教員研修】ICTを活用した指導の充実

情報部主任 主幹教諭 柳 明良

本校では、教職員のICT活用指導力の向上を目的として、今年度「情報」に関する研修を2回実施いたしました。第1回は、7月22日（水）に行い、帝京大学教育学部教授の金森克浩先生を講師にお迎えし、全国の特別支援教育におけるICT活用の実践事例について御講演いただきました。また、校内で取り組んでいる「Drop Tap」や「Teams」などの活用事例についても紹介し、日々の授業や教育活動への活用について学びました。

第2回は、8月26日（水）に実施し、「コミュニケーション」をテーマとした講義に加え、iPadやスイッチ機器、プログラミング教材などを実際に体験する研修を行いました。教職員が機器に触れながら学ぶことで、児童・生徒一人一人の実態に応じた活用方法について理解を深めることができました。今後もICT機器の効果的な活用を進め、児童・生徒の学びの充実につながる教育活動に取り組んでまいります。

